

没後 200 年記念 ましやませっさい 増山雪斎展

2019 年 4 月 20 日（土）－6 月 16 日（日）

2019 年は、伊勢国長島藩主、増山雪斎（1754－1819）の没後 200 年にあたります。

本展覧会では、近世三重が輩出した文人大名、増山雪斎の業績を、多彩な絵画作品に加え、各地の文人との交流に焦点をあてて紹介します。

増山雪斎とは？

長島藩主・正賛の長男として、宝暦 4 年（1754）、江戸の藩邸で生まれました。明和 8 年（1771）、従五位河内守に叙任。安永 5 年（1776）、父正賛（まさよし）没、長島藩 2 万石を襲封します。

安永 7 年（1778）以降、4 度の大坂城加番を命じられ、大坂に赴任。天明 3 年（1783）以降、大坂の商家であり稀代の物産家、木村兼葭堂（きむらけんかどう）としばしば面会しています。また、同じく天明 3 年までに、大坂の漢学者であり書画家、十時梅厓（とときばいがい）を臣下に迎えていたと考えられます。

寛政 2 年（1790）、過釀事件により財産没収を受けた兼葭堂を領内川尻村（現三重県四日市市川尻町）に招いて庇護しますが、一説によると、兼葭堂を匿ったことが、幕府の忌むところとなり、その後の隠退に繋がったとされています。

享和元年（1801）、致仕して、巢鴨の下屋敷に隠退し、代表作《虫豸帖》（ちゅうちじょう）（東京国立博物館 蔵）をのこします。文政 2 年（1819）没、増山家菩提寺、上野東叡山勧善院に葬られました。その 2 年後には、雪斎の遺命により、《虫豸帖》などの写生に用いた生類供養のために、勧善院に蟲冢が建てられています。



1. 春木南湖（はるきなんこ）[画]、増山雪斎[賛] 雪斎公肖像画（部分）1817 年 個人蔵

展覧会の構成

第1章.「雪斎 風流拔群の人なり」

藩主時代の代表作、雪斎に対する同時代評などから、小藩の藩主にとどまらない、文人界の盟主としての雪斎像を紹介します。



2. 増山雪斎 老松梟鳥図 1792年 個人蔵

第2章.「小さいいのちを見つめる」

雪斎の学芸の要であり、画人としての技量を支えた博物図譜と、図譜中の昆虫や草木が登場する本画（鑑賞画）を展覧し、美術と科学の視点が混在する雪斎の美意識を紹介します。



3-a.

増山雪斎 虫豸帖（ちゅうちじょう）



3-b.

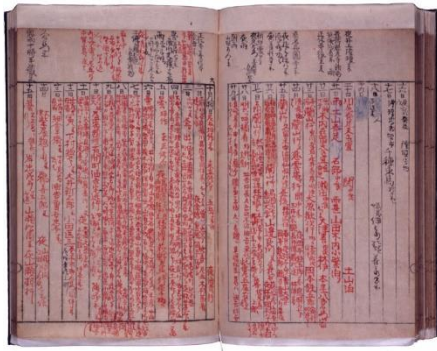
1807～12年 東京国立博物館 Image:TNM Image Archives



4. 増山雪斎 黄蜀葵に翡翠図 1801～18年 個人蔵

第3章.「文雅の交わり」

各地の文人との交友によりうまれた寄合書や書画帖、木村蒹葭堂や十時梅厓、春木南湖(はるきなんこ)ら周辺人物との交渉を伝える史料により、文化的交際において雪斎の果たした役割を紹介します。



5. 木村蒹葭堂 蒹葭堂日記 1789～91. 93年 大阪歴史博物館

第4章.「雪斎とその時代」

水墨による山水人物画から南蘋(なんぴん)風の華麗な花鳥画まで、およそ30年にわたり制作された多彩な絵画作品を、関係のあった画人の作品とともに紹介します。



6. 猫図(左幅)1814 年 個人蔵

展覧会のみどころとおすすめポイント

その1 12年ぶり、過去最大規模の増山雪斎 展

本展は、1993 年「江戸の風流才子 増山雪斎展」(三重県立美術館 県民ギャラリー)、2007 年「増山雪斎 大名の美意識」(桑名市博物館)に続く、3度目の増山雪斎展となります。三重県立美術館では 26 年ぶり、雪斎展としても 12 年ぶりとなる今回の展覧会は、出品点数 125 点、過去最大規模の雪斎展。近世三重が輩出した文人大名、増山雪斎の業績を、多彩な絵画作品に加え、各地の文人との交流に焦点をあててご覧いただきます。

その2 展覧会初出品作品多数

本展には、増山雪斎《草花蜻蛉図》、《猫図》、《蘭図扇面》など、展覧会初出品となる作品も多数含まれています。その多くは、通常は美術館で鑑賞することが叶わない個人所蔵の作品。最新の研究成果に基づき紹介される貴重な作品を、ゆっくりと楽しむまたとない機会です。

その3 木村蒹葭堂との関係にも注目

近年、大坂画壇の再評価が進んでいます。木村蒹葭堂と深いつながりのあった雪斎は、大坂画壇を考える際にも欠かせない存在です。3年後には木村蒹葭堂の没後 220 年が控えていることから、蒹葭堂や大坂画壇がますます注目を集めることは疑いありません。本格的な大坂画壇ブームの到来にさきがけて、雪斎と大坂画壇の関係に触れることができます。

その4 増山雪斎に関連したイベントを開催

5月18日(土)14時から、三重大学教育学部教授 山口泰弘氏による「風雅を愛でる」と題した特別講演会を開催します。聴講無料、事前の申込も不要です。

また、5月11日(土)、6月8日(土)14時から、担当学芸員が展覧会や作品の魅力についてお話するギャラリートークを開催します。参加は無料ですが、観覧券が必要です。

その5 虫好き・植物好きは見逃せない！MieMu との連携！！

三重県総合博物館の協力を得て、雪斎が描いた虫や植物について考えます。

美術のみならず、昆虫、植物の専門家の視点で、雪斎作品に迫ります。総合博物館学芸員によるギャラリートークの他、雪斎作品にみられる虫や植物の標本もご紹介していきます。

展覧会概要

会 期 平成31年4月20日(土)～平成31年6月16日(日)

休 館 日 月曜日(ただし4月29日、5月6日は開館)、5月7日(火)

※会期中、展示替えをおこないますのでご注意ください。

会 場 三重県立美術館1階 企画展示室

観 覧 料 一般 900(700)円 学生 700(500)円 高校生以下無料

※()内は前売りおよび20名以上の団体割引料金。

※障害者手帳等をお持ちの方およびその付き添いの方1名は観覧無料。

※県内学校(小・中・高・特支)が来館する場合、引率者も無料(要申請)。

※毎月第三日曜日「家庭の日」は団体割引料金。

主 催 三重県立美術館、朝日新聞社

助 成 公益財団法人岡田文化財団、公益財団法人三重県立美術館協力会

特別協力 東京国立博物館、文化財活用センター

後 援 桑名市、桑名市教育委員会

広報用画像について

本プレスリリース掲載の1-6 の画像を広報用に提供します。

ご希望の方は下記注意事項をお読みの上、ご連絡ください。ご希望の図版データをお送りします。

- ・画像のトリミング、文字のせはご遠慮ください。
- ・画像下部記載の作品情報、クレジットを必ず併記してください。
- ・掲載物を一部または紙面データを美術館にご提供ください。
- ・提供したデータについて、広報目的以外のご使用はできません。
- ・ウェブサイト上に掲載する場合は、コピーガードをかけ、無断転載禁止の旨を明記して下さい。

お問い合わせ

三重県立美術館 学芸普及課 広報担当 道田 美貴（みちだ・みき）

展覧会担当 村上 敬（むらかみ・けい）

〒514-0007 津市大谷町 11 番地 三重県立美術館 学芸普及課

TEL: 059-227-2100 FAX: 059-223-0570 E-MAIL: michim00@pref.mie.lg.jp (道田)